

ハス（蓮）

雨中に咲くハスの花。ハスの葉や花は、水中で横になったり、まっすぐ立ったりすることで、水位の変化に対応しています。ハスは水草で、全体が水没した状態が3～4日続くと枯死します。

Vol.122

令和2年度8月号

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を延期していましたが自然体験講座を10月より再開いたします。

— 令和2年度、第1回 自然体験講座 —

伊豆沼漁師体験参加者募集

いろいろな網を使い、魚を取る漁師になろう。大きな魚と出会えるかもしれません。

第1回 10/4 (日)10:00～13:00 (雨天中止)

※10月以降に「ガンの飛び立ち観察会等」の自然体験講座(11月～1月開催)の参加者募集を予定しています。

対象は小学生以上(小学生は保護者同伴)。定員は20人申込先着順。参加費(当日徴収)1人1,000円(昼食・保険代)。持ち物は長靴、汚れてもいい服、着替え、帽子、飲み物、タオル。

集合場所は宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター(鳥館)。

◆お申し込み、お問い合わせは宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターまで電話、またはメールにて



— 財団研究員が宮城大学の非常勤講師も勤めています —

今年は新型コロナ感染者拡大のため、オンラインの講義となりました。内容は、伊豆沼・内沼を題材に生態系と農業との関わりを学ぶ講義です。沼を知らない学生にも伝わるよう、動画や画像を豊富に入れたら、スライドの総数は300枚以上の大作になりました。

オンライン講義は、相手の反応が見えないため、話し手も手探りの状態でしたが、授業後のアンケートには質問や詳しい感想も書かれており、真面目に講義を聞いてくれたことが伝わりました。学生には「あなたが伊豆沼・内沼の環境保全の担当者だったら何をするか」というレポート課題を出しています。✂切はまだ先ですが、既に提出されたレポートには、面白そうな提案も書かれていて、楽しんで読ませて貰っています。



新型コロナウイルス感染防止対策状況

新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月から休館していましたが、6月2日より施設を再開しています。そこで、現在の対策状況を紹介します。

写真①: (館内に入って正面) 「マスク着用」、「手指消毒」ご協力の案内を掲示しています。

写真②: (館内に入って右手) 「消毒液」と「入館者受付表」の記載用紙を配置しています。

上記以外に館内では、展示物等の消毒を毎日複数回実施しています。

※入館時に「マスク着用」、「手指消毒」、「受付表記載」のコロナ感染対策にご協力いただいた後は、館内を自由にご覧いただけます。



①



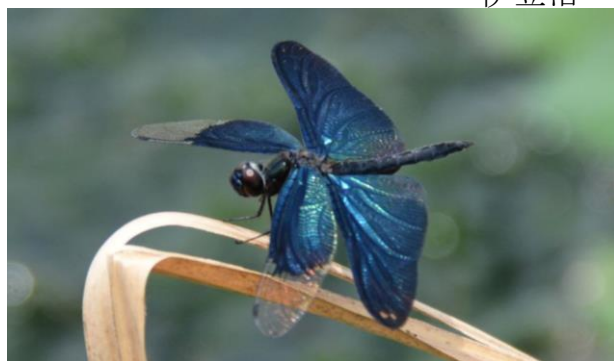
②



ご協力をお願いします

伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～トンボ特集～

伊豆沼・内沼に生息する色鮮やかなトンボをご紹介します。



チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa*

青紫色にきらめく大きな翅（はね）をもつトンボです。国内では本州、四国、九州に分布しています。和名は、蝶（チョウ）のような見た目の翅やヒラヒラと飛ぶ様子にちなんでいます。



ショウジョウトンボ *Crocothemis servile mariannae*

頭から脚の先まで真紅に染まったトンボです。全身赤色なのは成熟したオスで、メスは薄いオレンジ色をしています。成熟したオスは、水辺の植物などに止まって縄張りを形成します。



オオセスジイトンボ *Paracercion plagiosum*

淡い青色が印象的なオオセスジイトンボ。オスとは異なりメスは緑色をしています。生息地が減っており、環境省のレッドリストで絶滅危惧 I B類に指定されている貴重なトンボです。



アオイトンボ *Lestes sponsa*

光沢のある鮮やかな緑色が美しいアオイトンボ。産卵は、オスとメスが連結し、水面近くの植物組織の中に卵を産み付けます。オスとメスが水中に潜って産卵することもあるようです。

